

映画の廃墟？ 柳瀬のアーケード

「中心市街地の活性化」以前の問題・・・



放置されたアーケードは赤錆び、雨よけが垂れ下がるビニール（柳瀬中心の旧長崎屋となり）
本年1月16日に、岐阜市議会都市活性化対策特別委員会で北九州市の「魚町サンロード商店街の再生」と言うリノベーション事業を視察させて頂きました。関心を持ちましたのは、商店街再生に関連して「アーケード撤去」が行われている事でした。

事業のきっかけは、商店街にアーケード更新予算が無かった事が、事業のきっかけでした。複数のリノベーション物件の取り組み、商店街はアーケードの撤去、北九州市は道路の改装、そして国家戦略特区の取り組みとして、道路占用要件の一部緩和などを行い街の「再生」を実現されていました。再生家屋には建築関係の設計者等の関連会社が合同入居されてみえる例もありました。

先日、柳瀬ではトランジットモールを一つのテーマとしてイベントが行なわれました。昨年は雨でしたから、昨年と比較して大変にぎわったとの報告です。恐竜の周りには多くの人だかりが出来ていたとのお話もありました。

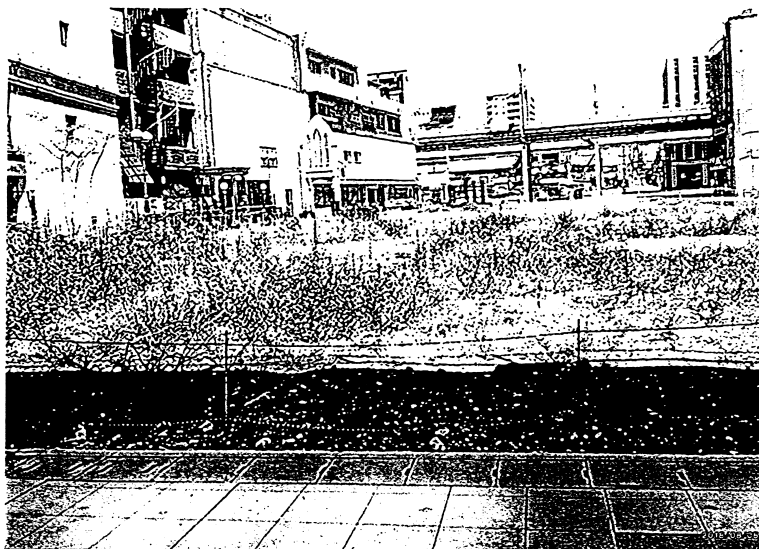
しかし、イベント会場のすぐ隣、柳瀬の真ん中には、旧長崎屋の建築物（うら面へ）

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

が暗い残骸を残しています。更には、隣接して老朽化し、錆びたアーケードが放置されたままです。街の真ん中には草が生い茂る空き地が放置されてもいます。トランジットモールの一時の華やかなイベントとの落差を感じさせ、悲しい限りです。

大物建築物である旧長崎屋に手を着けられなくても、せめて古く危険であり、大地震で倒壊し人命に影響も及ぼしかねないアーケード撤去が出来ませんか？と、中心市街地活性化担当のまちづくり部にお話ししましたら、「アーケード撤去は商工観光部です」と言われる。商工観光部にお話ししたら「商店街が・・・」と言われる。

市街地活性化とは、街の価値を上げる事業と思います。訪れたい街、住みたい街と市民に感じて頂ける街を創造する事業、そして、集まった人がまた、人を呼んで頂ける環境を作る事業。道路の不備等を一つ一つ拾うところからはじめ、身近な箇所からブラッシングをする。そして広める事業かと思えます。



放置された草むらは街の価値を毀損する

放置されたアーケードは自ら再生しない

二つの部では荷が重いなら、企画や財政部なども参加して知恵と財政の力を発揮すべきです。リースが良いと主張しましたが、同じ柳瀬の高島屋南開発では24億円以上もの税金が投入されコンクリートの箱を買おうとしています。比して、まだ行なうべき事業が柳瀬にあります。アーケード撤去プロジェクトを立ち上げるべき時です。



松原のりかず
☎058-253-2500